

30【街の散策からの気づき発見】

小淵観音院散策

会員 K.T.

小淵観音院(春日部市小淵1634番地)に来ている。この寺院は鎌倉時代中頃、正嘉二年(1258)に建立された、と伝わっている。寺院の説明看板によると、京都聖護院門跡の末寺にあたる本山派修験の寺院で観音信仰の霊場として栄えた。入口に建つ仁王門は元禄二年(1689)の建立といわれ、口を結んだ吡形と開口の阿形の2体、迫力のある仁王様がいる。

修験の寺院とは、修験道という宗教の寺院を指す。修験道とは日本古来の山岳信仰に仏教や道教等が融合した宗教。修験者(山伏)が山中で修行して超自然な霊力や悟りを得ようとしていた。修験の寺院は修験者が修行する場や修行の成果を社会に還元する場の役割を、担っていた。修験道からは、神通力を使う役小角や今昔物語の久米仙人の話が思い浮かべられる。

「修験道」について、ウィキペディアで調べると、「修験道は飛鳥時代(592～710)のころ役小角(役行者)が創始したとされる。(中略)修験道は平安時代の頃から信仰されるようになった。(中略)神仏混淆(神仏習合)は徐々に広まり、(中略)仏教の一派である密教(天台宗・真言宗)で行われていた山中の修行と日本古来の山岳信仰が結びついて、修験道という独自の信仰が成立していった。(中略)江戸幕府は慶長18年(1613)に修験道法度を定め、真言宗系の当山派と天台宗系の本山派のどちらかの属さねばならないとした。(中略)明治元年(1868)の神仏分離令に続き、明治5年(1873)修験禁止令がだされ、修験道は禁止された。また廃仏毀釈により、修験道の信仰に関するものも破壊された。(後略)」、明治政府により神仏習合を基本とする修験道は叩かれた。粕壁宿にも、歴史から消えた修験の寺院がある。江戸時代、小淵には修験宗の大寺院、「不動院」があった。

共栄大学名誉教授 内藤徹雄 著『シリーズ春日部市研究第18回 不動院と観音院』を引用すると、「(前略)不動院というお寺は今では痕跡をとどめておりませんが、明治時代まで小淵の古利根川あたりにあった大寺院です。(中略)不動院は小田原の玉龍坊と並び関東全域の本山派修験寺院を統括し、その翼下の寺院は江戸後期には現在の埼玉県東部地区だけで53ヶ寺に及びました。(中略)江戸時代に隆盛を極めた不動院も明治に入ると急速に衰退の途をたどります。(中略)明治元年(1868)、神仏分離令を発布(中略)神仏習合の修験宗には大きな打撃になりました。続いて明治4年に寺社の所領奉還命令が出され、さらに明治5年(1872)には、人心を惑わすものとして修験宗を廃止する布告が出されました。不動院は天台宗寺門派に改宗することで明治以降もかろうじて生き延びましたが、寺勢は振るわず敷地は五分の一に縮小し、明治40年(1907)頃東京の砂町(現江東区)に移転しました。その後、昭和20年(1945)3月の東京大空襲で戦火に遭い、敗戦の混乱の中で別の寺院に吸収され消滅しました。(後略)」

小淵観音院は、観音信仰の霊場であったことから明治初期の神仏分離令の難を逃れたらしく、現在も同じ場所に「修験道 山伏の寺 本山修験宗 小淵山正賢寺観音院」として残っている。毎年 GW 期間(5/3～5/6)に小淵観音院では「円空祭」が開催され、通常は埼玉県立歴史と民俗の博物館で保管されている円空仏群7体の仏像が本堂で拝観できる。円空仏とは江戸時代前期の修験僧円空(1632～1695)が鉋一本で掘り出した一刀彫の仏像である。諸国をめぐっていた円空はあちこちで円空仏を残している。小淵観音院には語法大善神・徳夜叉明神・蔵王権現立像・役行者倚像・毘沙門天立像・不動明王立像・聖観世音菩薩立像の7体が伝わっており、今年、これらを見た。明治の廃仏毀釈の災難を乗り越え、よく残ったものだ、と思う。



聖観世音菩薩立像



役行者倚像